



Date

県内経済 〈6月〉

概況

県内経済は、全体として回復の動きが足踏みしている

電子部品は前年を上回ったものの、木材が前年を下回ったほか、機械金属も低迷が続いている。建設は、住宅着工が前年を上回ったが、公共工事は前年を下回った。個人消費は緩やかに回復している。雇用情勢は弱い動きとなっている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、A I 関連の需要拡大にともない、データセンター向けのHDD部品の生産が増加し、13か月連続で前年を上回った。機械金属は、ウエイトの高い輸送機械で、国内向けが大きく落ち込み、28か月連続で前年を下回った。木材の生産量は、普通合板（5月）は5か月連続で前年を下回った。製材品は6か月連続で前年を下回った。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を下回った。地元大手（12社）の建設受注額は、官公庁工事、民間工事とも振るわず、2か月連続で前年を下回った。住宅着工は2か

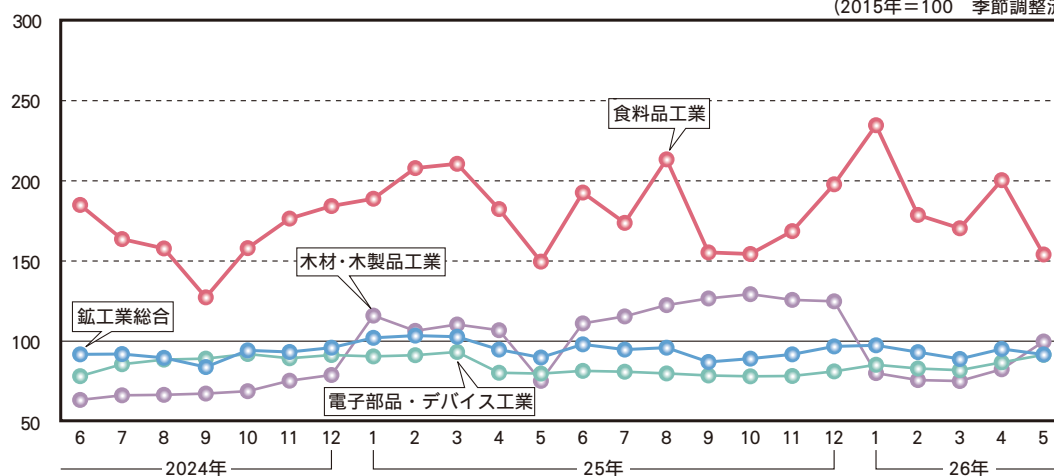
月ぶりに前年を上回った。個人消費は、小売店販売額（5月）が19か月連続で前年を上回ったほか、新車乗用車販売台数も「自動車税環境性能割」の廃止による税負担の軽減などから、3か月連続で前年を上回るなど、緩やかに回復している。

有効求人倍率は前月比0.01ポイント上昇の1.15倍となった。新規求人数は前年比5.0%減と5か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比8.4%減と9か月連続で前年を下回った。

企業倒産件数は4件、負債総額は9,900万円であった。

秋田県鉱工業生産指数の推移

(2015年=100 季節調整済)



資料：秋田県企画振興部調査統計課「秋田県鉱工業生産指数月報」



電子部品

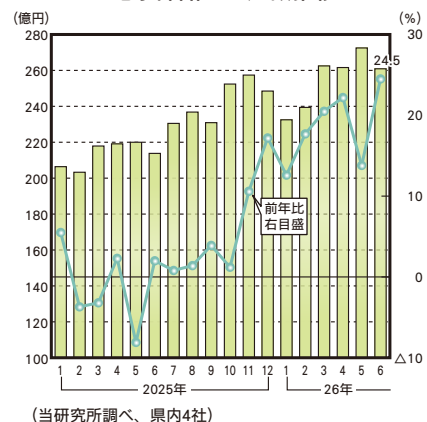
生産額、高水準続く

6月の生産額は前年比24.5%増となり、13か月連続で前年実績を上回った。

車載向けはEV市場の低迷により減少傾向にあるものの、AI関連の需要拡大にともない、データセンター向けのHDD部品の生産が増加し、総体では活況が続いている。

その他品目別では、主力のコンデンサ等は増加傾向が続く。液晶パネルは前年を上回る勢いで大幅に増加し、半導体素子は一進一退の状況にある。

電子部品の生産額推移



機械金属

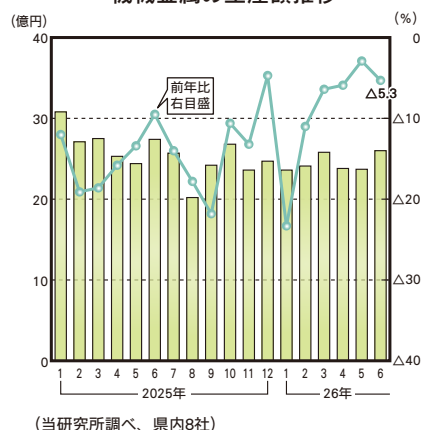
生産額、28か月連続で前年比減少

6月の生産額は前年比5.3%減となり、28か月連続で前年実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、海外向けの需要増により一部で回復しているものの、国内メーカーの車種生産終了の影響が大きく、総体では低迷が続いている。その他民需関連では、産業機械は前年の反動から減少し、建機部品、金型は一進一退の状況にある。

公共工事関連では、橋梁・鉄骨、水道部品とも持ち直しの動きがみられる。

機械金属の生産額推移



木材業

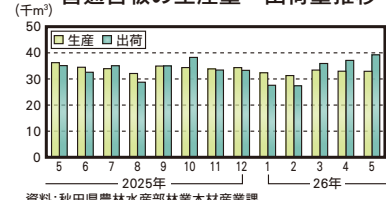
合板の生産が5か月連続で前年比減少

全国的に住宅着工の減少により木材需要が低迷する中、本県では、昨年は県北の大型製材工場稼働もあり合板、製材の供給増加が続いたが、年初以降は合板、製材とも生産が前年比減少で推移している。

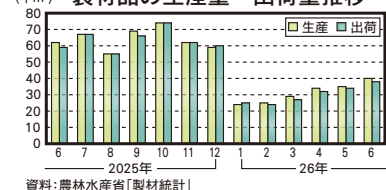
5月の普通合板は、生産量は前年比9.1%減と5か月連続で減少となった。出荷量は同11.8%増と2か月ぶりに増加となった。新設住宅着工の低迷による最終需要の伸び悩み等のため、2026年1月から生産の前年比減少が続いている。

6月の製材品は、生産量が前年比35.5%減、出荷量が同35.6%減と、ともに6か月連続で前年比減少となった。

普通合板の生産量・出荷量推移



製材品の生産量・出荷量推移

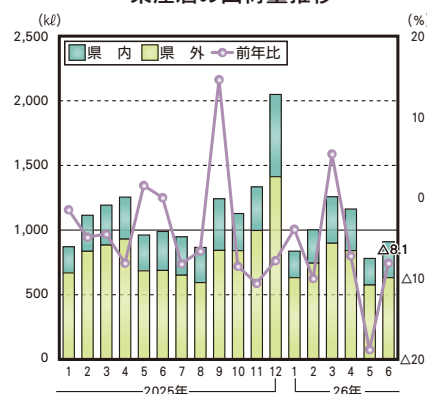


酒 造 業

出荷量、3か月連続で前年比減少

6月の清酒出荷量は、前年比8.1%減となった。4月に一部メーカーで商品価格を上げた影響などから、3か月連続で前年を下回った。出荷先別では、県内向けは同7.9%減、県外向けも同8.1%減となった。県外の主な出荷先別では、東京都が同7.1%増、北海道は同22.5%増となったが、東北5県は同5.5%減となったほか、その他の府県も同24.6%減と前年を大幅に下回った。種類別では、普通酒は同12.5%減、特定名称酒も同4.1%減となった。特定名称酒の内訳では、純米酒が同2.4%増となった一方で、吟醸酒は同6.0%減となったほか、本醸造酒も同20.1%減と前年を大幅に下回った。

県産酒の出荷量推移



資料：秋田県酒造組合

建 設 業

公共工事 国、県等が減少し前年を下回る

6月の公共工事請負金額は、独立行政法人が前年比増加したものの、国、県、市町村が減少し、総体では前年比12.9%減と2か月ぶりに前年を下回った。

一方、当研究所調査による地元大手12社の6月の新規受注額は、前年比58.5%減の1,980百万円となり2か月連続で前年を下回った。

うち官公庁工事は、港湾の浚渫や災害復旧、河川の災害復旧等の大口工事があったものの、同55.8%減となった。民間工事は、大口工事の受注がなく、同70.2%減と前年を下回った。

公共工事前払金保証実績

(単位：件、百万円、%)

区 分	6月	前年比	4～6月	前年同期比
件 数	319	11.5	744	△7.1
請負金額	25,360	△12.9	79,390	△15.2

資料：東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

(単位：百万円、%)

区 分	6月	前年比	4～6月	前年同期比
官 公 庁	1,715	△55.8	3,437	△43.6
民 間	265	△70.2	675	△59.4
合 計	1,980	△58.5	4,112	△47.0

(当研究所調べ、県内12社)

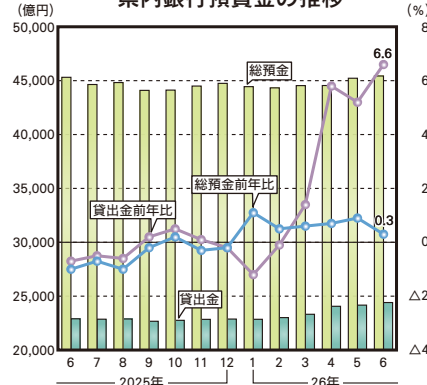
金 融

預金、貸出金とも前年比増加続く

6月末の県内銀行の預金は、前月末比208億円増加し、前年比でも0.3%の増加となった。貸出金は、前月末比240億円増加し、前年比でも6.6%の増加となった。預金は6か月連続で、貸出金は4か月連続で前年を上回った。

6月の倒産件数(負債総額1千万円以上)は4件(前年比2件減)、負債総額は9,900万円(同82.6%減)となった。倒産件数は、4月以降減少傾向が続き、6月単月も4件に止まるなど、小康状態が続いている。負債総額は、比較的小規模な倒産のみであったため、2025年2月以来1年4か月ぶりに1億円を下回った。

県内銀行預貸金の推移



資料：秋田県銀行協会



住宅着工

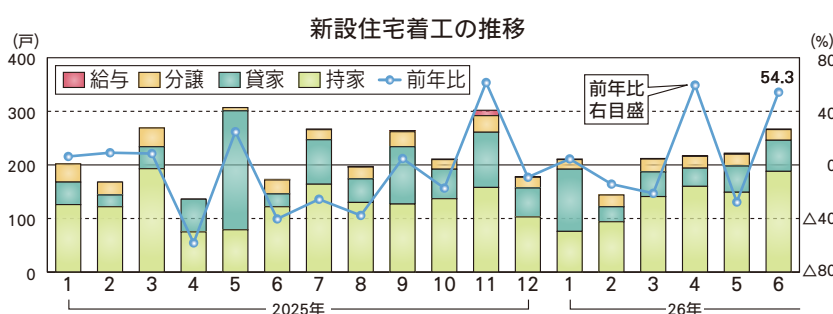
着工戸数、2か月ぶりに前年比増加

6月の県内新設住宅着工戸数は、267戸（前年比94戸増、54.3%増）であった。分譲住宅は減少したものの、主力である持家のほか、貸家が増加したため、2か月ぶりに前年を上回った。

利用関係別では、持家が188戸（前年比66戸増）、貸家が58戸（同34戸増）、分譲住宅が20戸（同6戸減）、給与住宅が1戸（同横這い）となった。

持家は、前年に建築物省エネ法改正の影響により減少した反動などから、3か月連続で前年を上回った。貸家は、秋田市で大幅に増加したほか、仙北地域でも増加し、3か月ぶりに前年を上回った。分譲住宅は、3か月ぶりに前年を下回った。

地域別では、全地域で持家の着工が増加したほか、県央は貸家、県南は貸家と分譲住宅の着工がそれぞれ増加した。



住宅着工動向 (単位：戸、%)

区分	2026年6月	前年比	26年1~6月	前年比
県北	31	40.9	148	△16.9
県央	177	60.9	847	4.1
県南	59	43.9	278	5.7
合計	267	54.3	1,273	1.4

資料：秋田県建築住宅課

個人消費

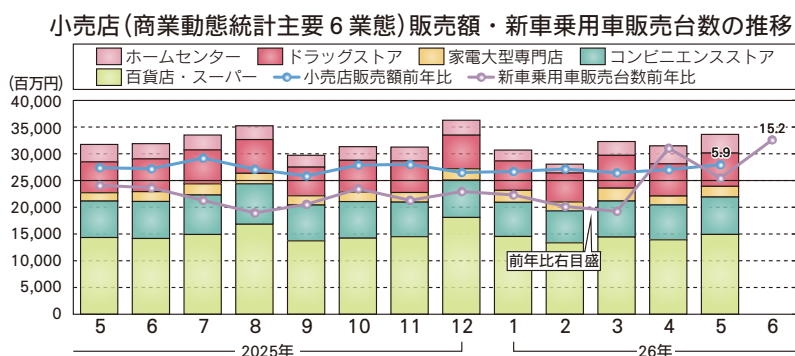
緩やかに回復している

5月の小売店（商業動態統計主要6業態）販売額は、前年比5.9%増となり、19か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、家電大型専門店（前年比28.0%増）、ドラッグストア（同7.8%増）、ホームセンター（同7.2%増）、百貨店・スーパー（同4.0%増）、コンビニエンスストア（同2.6%増）とすべての業態で前年を上回った。

6月の新車乗用車販売台数は、新型車の導入や「自動車税環境性能割」の廃止による税負担の軽減などにより、前年比15.2%増と3か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、登録車が前年比17.1%増と3か月連続で前年を上回ったほか、軽乗用車も同12.7%増と3か月ぶりに前年を上回った。



6月の新車乗用車販売台数 (単位：台、%)

区分	販売台数	前年比
新車乗用車総販売台数	2,963	15.2
登録車	1,732	17.1
普通車	979	22.4
小型車	688	12.1
輸入車	65	0.0
軽乗用車	1,231	12.7

資料：秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標（前年比）（単位：%）

区分	2026年3月	4月	5月
①消費者物価指数	1.1	1.8	2.0
②勤労者名目賃金	5.4	4.8	6.2

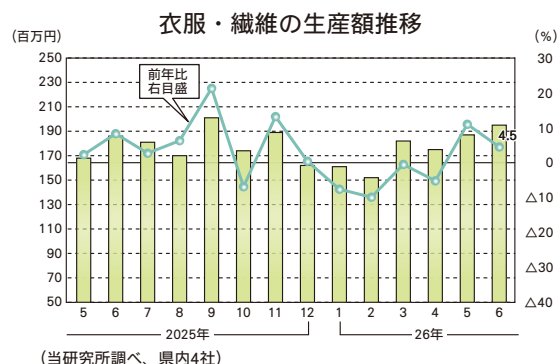
資料：①秋田県（総合指数、秋田市）
②秋田県（事業所規模5人以上）

衣服・繊維

生産額、2か月連続で前年比増加

6月の生産額は、前年比4.5%増となった。婦人服における大ロット生産の増加などを受け、2か月連続で前年を上回った。

受注は、秋冬物が好調に推移し、2か月連続で前年を上回った。一方、中東情勢の影響から生産コストの上昇が続き、メーカーとの工賃引上げ交渉が急務である。



雇用

弱い動き

6月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.01ポイント上昇の1.15倍となった。常用の内訳では、一般は同0.05ポイント上昇の1.31倍、パートは同0.01ポイント低下の0.65倍となった。

新規求人数は前年比5.0%減となり、5か月連続で前年を下回った。産業別にみると、製造業は同7.6%増となった。「食料品」「木材・木製品」で減少したものの、「電子部品・デバイス・電子回路」で生成AI関連の需要拡大を背景に増加したほか、その他の業種でも増加した。非製造業は同6.7%減となった。「生活関連サービス、娯

楽」などで増加したものの、「宿泊、飲食サービス」で採用が一定程度進んだことにより減少したほか、「サービス」でも警備業で求人条件見直しなどから減少した。

新規求職者数は前年比4.7%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比8.4%減となり、9か月連続で前年を下回った。

地域別雇用状況（パートを含む常用）をみると、新規求人数は県北、県央、県南でいずれも減少した。有効求人倍率は県北が最も高く1.17倍、県央が0.99倍、県南が0.96倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数（全数）

(単位：人、%)

区 分	2026年5月	前年比		6月	前年比
		2025年5月	2025年5月		2025年5月
新規求人計	5,801	△10.2	6,831	△5.0	
製造業	729	10.0	910	7.6	
食料品	86	△20.4	104	△32.0	
繊維	85	13.3	138	6.2	
木材・木製品	29	81.3	38	△26.9	
金属製品	63	6.8	97	26.0	
電子部品・デバイス・電子回路	137	59.3	164	69.1	
電気機械器具	46	12.2	52	30.0	
非製造業	5,072	△12.5	5,921	△6.7	
建設	841	△12.2	1,184	△3.1	
運輸、郵便	310	32.5	322	△1.2	
卸売、小売	685	△14.8	776	△4.6	
宿泊、飲食サービス	350	△41.2	334	△33.2	
生活関連サービス、娯楽	174	△14.3	263	32.2	
教育、学習支援	159	78.7	88	3.5	
医療、福祉	1,055	△18.7	1,396	△5.2	
サービス	889	△9.2	887	△10.1	
新規求職者数	3,449	△13.6	3,350	4.7	
有効求職者数	17,067	△1.8	16,713	△0.4	

資料：秋田労働局職業安定課
(注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位：倍、人、%)

区 分	2026年3月	4月	5月	6月
有効求人倍率	1.30	1.26	1.26	1.31
パートタイム	0.82	0.69	0.66	0.65
全数(季調値)	1.18	1.17	1.14	1.15
事業主都合離職者数	125	268	118	109
前年比	△38.7	△30.0	△22.9	△8.4

6月の地域別雇用状況（パートを含む常用）

(単位：人、%、倍、ポイント)

区 分	新規求人数		有効求人倍率	
	2026年6月	前年比	2026年6月	前月比
県北	1,569	△ 9.6	1.17	0.03
県央	3,050	△ 5.7	0.99	0.02
県南	1,411	△ 3.9	0.96	0.02
合 計	6,030	△ 6.3	1.02	0.02

(注) 臨時・季節を除く